



個人投資家向け会社説明会

2015年1月

株式会社 足利ホールディングス (東証1部:証券コード7167)

株式会社 足利銀行

I 足利銀行について

- 足利銀行の歩み 3
- 企業理念と行動指針 4
- シンボルマークと行章 5
- 広域ネットワーク(店舗網) 6
- 足利銀行の強み 7
- 足利銀行の規模 10
- 預金・貸出金の推移 12
- 資産の健全性 13
- 自己資本の充実 14

II 現在取り組んでいること

- 個人のお客さま 16
- 法人のお客さま 18
- 地域への貢献 21

III 業績見通し

- H27年3月期業績見通し 23
- 株価推移 24

IV ご参考

- (補足) 足利銀行の歩み 26
- 中期経営計画の概要 27
- H26年9月期中間決算概要 28
- マザーマーケット「栃木県」
の魅力 30

I 足利銀行について

足利銀行の歩み ～沿革～

本年はおかげさまで創業120周年。これからも地域とともに歩みつづけます。

明治28年 10月	栃木県足利市にて「足利銀行」創業
明治30年 11月	群馬県桐生市に第1号支店開設
昭和19年 3月	栃木県唯一の普通銀行となる これまでに栃木・埼玉県下の6行を合併、12行より営業譲受（※補足ご参照）
昭和42年 2月	本店を宇都宮市に移転
昭和60年 9月	創業90周年「企業理念」の制定、CIの導入
平成15年 11月	経営破たん、特別危機管理開始決定（一時国有化）
平成20年 7月	足利ホールディングスが足利銀行の全株式を取得し再民営化 （特別危機管理の終了）
平成25年 4月	中期経営計画「チャレンジ120～創業120年に向けた果敢なる挑戦～」スタート （平成25年4月～平成28年3月）
平成25年 12月	足利ホールディングスが東証一部に上場
平成27年 10月	足利銀行が創業120周年を迎える

企業理念と行動指針 ～ 創業の精神を現在に受け継ぐ～

《企業理念》



●存在意義

「豊かさの創造に寄与する」

足利銀行は、地域の総合金融機関として、地域社会のすべての人々の豊かさの創造に寄与しつづけます。

●経営姿勢

「地域と共に生きる」

足利銀行は、お客様本位の精神のもとに、地域と共に生きる開かれた銀行として積極的に健全な経営をすすめます。

●行動規準

「誇りと喜びをもって行動する」

わたくしたちは、自らの使命・役割をよく理解し、たえず自分を磨き、高め、誇りと喜びのある行動によって、人々の期待と信頼に応えます。

《行動指針》

お客さま志向

お客さま中心

お客さまのことを思い、
お客さまのために行動する

笑顔・誠実

お客さまには、親しみある態度や
笑顔で、誠実に接する

満足の追求

お客さまの求めるものを、
求めるときに提供する

当事者意識

地道・着実

うそやごまかしのない、
地道で着実な仕事をする

率先垂範

自ら進んで学び、考え、
行動する

共通理解

独り善がりに陥ることなく、
広く理解を得る

シンボルマークと行章



現在の本店（昭和42年移転・宇都宮市）
【昭和60年頃】



初代本店（現足利市）
【明治28年頃】

シンボルマーク

シンボル・マーク「ウイングA」について

■ 意味

一つの時代を開いて、未来のページが姿を現した瞬間を表現しており、明るい未来を積極的にひらいてゆく足利銀行の意欲と行動を象徴しています。また中にえがかれている三角形は、夢や希望の風をはらんだ翼であり、足利銀行のイニシャル「A」でもあります。

なお、このマークは、足利銀行の職員が日々新たな気持ちでお客さまや社会に接していく姿勢をも表しています。

■ コーポレート・カラー

限りない夢の広がりや明るい明日をイメージしたスカイブルー、理性や行動力をイメージしたマリンプールです。



行章

「マルニ」の行章について

■ 意味

創業の地「足利」にちなみ、地域のお客さまと足利銀行が円満に和合し、互いに発展していく姿を表しています。

■ 位置づけ

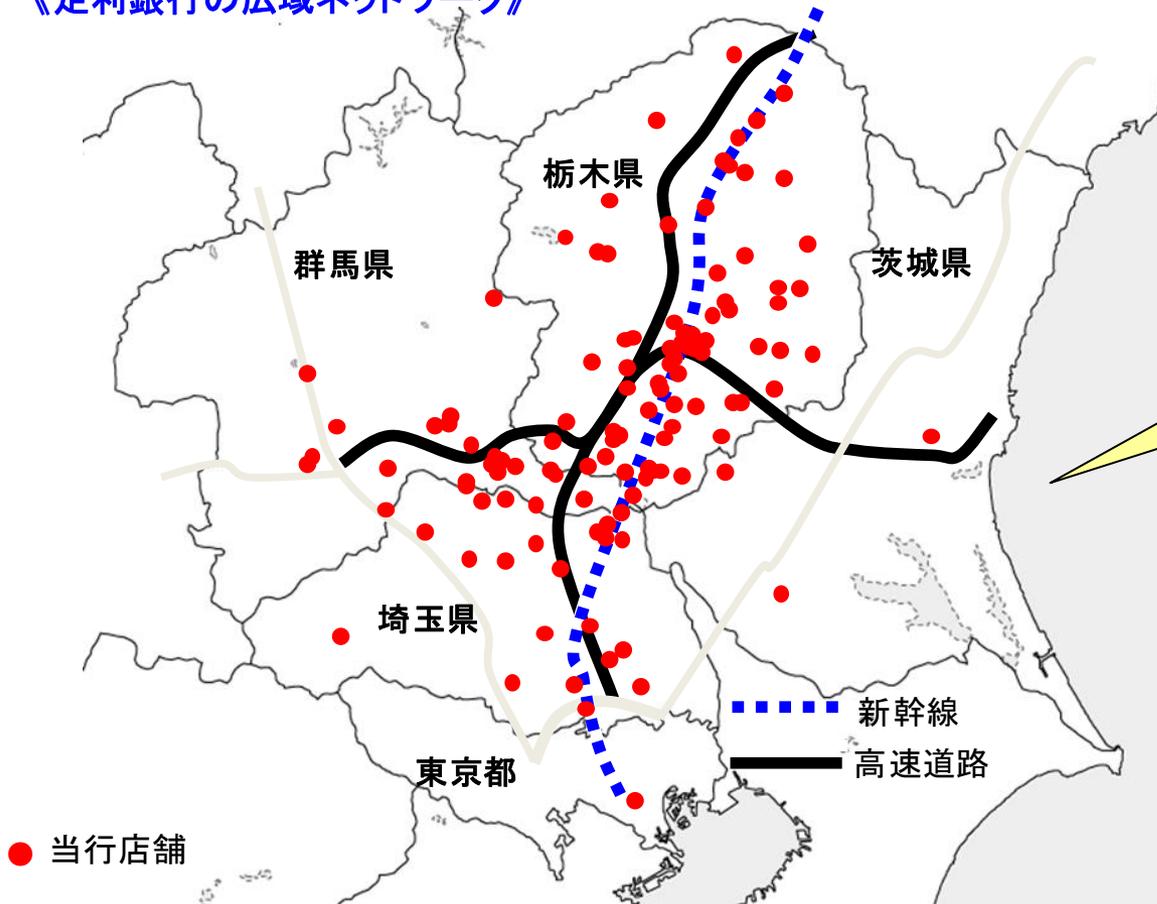
「全役職員があしぎんグループの一員として、誇りと喜びを持って行動し、地域の人々の期待と信頼に応える」という強い意志を持つことの象徴、つまり「足利銀行のスピリッツ」として25年ぶりに「マルニ」のバッジを復活し、胸につけることといたしました。

- 「マルニ」の行章はバッジのみで使用します。



広域ネットワーク（店舗網）

《足利銀行の広域ネットワーク》



栃木県を中心に、成長ポテンシャルの高い地域で、広域にネットワークを有し、お客さまの役に立つ金融サービスの提供を目指しています。

26年9月末 現在	店舗	店外 ATM	ローン センター
栃木県	112	181	15
群馬県	15	13	5
埼玉県	16	1	3
茨城県	8	3	1
その他	2	2	-
合計	153	200	24

《成長ポテンシャルの高い北関東エリア》

＜地理的優位性＞

首都圏北部に位置。2020年東京オリンピックに向けての需要拡大、経済波及期待。

＜交通インフラ形成＞

茨城、栃木、群馬を結ぶ「北関東自動車道」全線開通。交通ネットワーク整備が進む。

＜豊富な観光資源＞

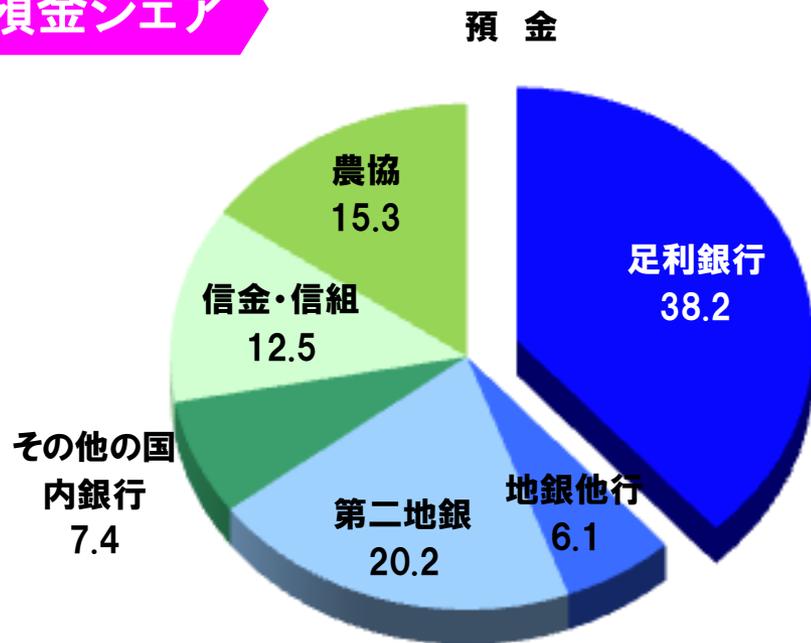
「日光二社一寺」に加えて、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録。

足利銀行の強み (1) 圧倒的な栃木県内シェア

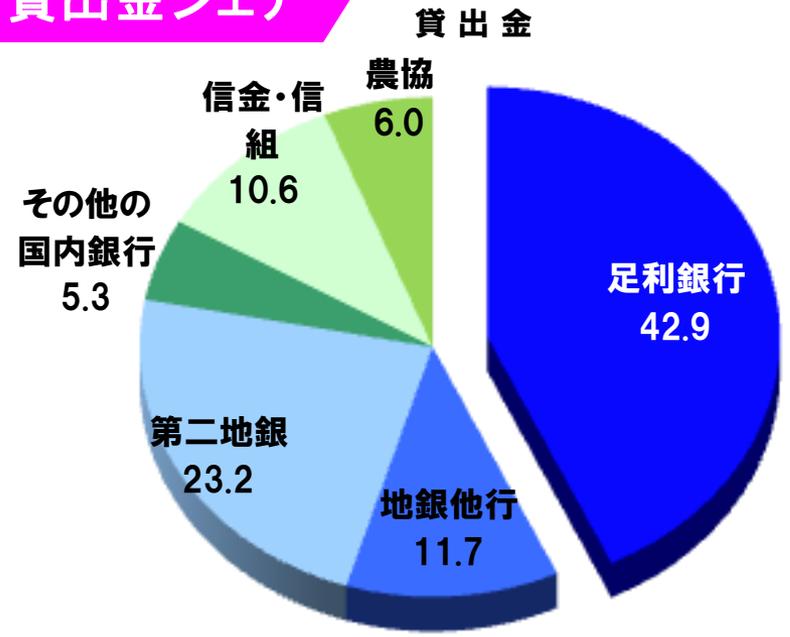
預金、貸出金とも栃木県内シェアは着実に拡大、あしぎんブランドが浸透しています。

平成26年3月末

預金シェア



貸出金シェア



(%)

平成20年3月末

35.9%

※ゆうちょ銀行除く、当社調べ

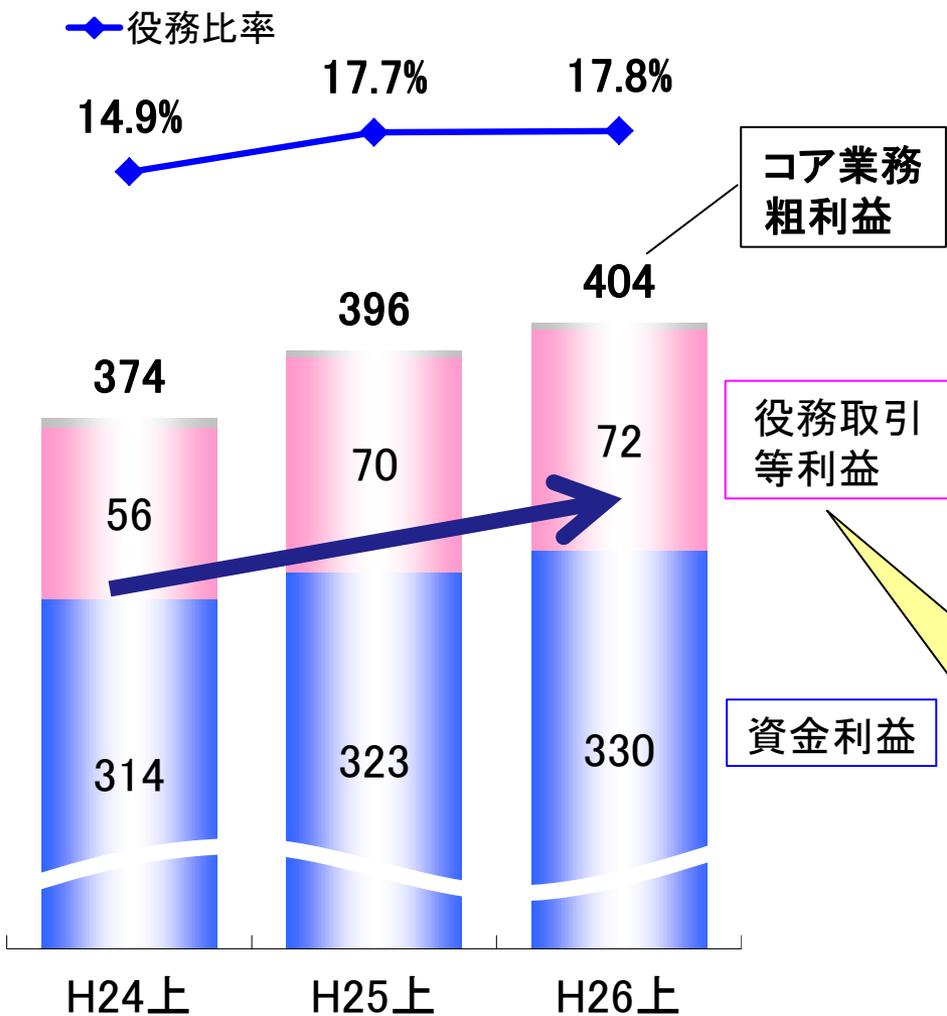
40.4%

足利銀行の強み (2) 好調な手数料ビジネス

本業で稼ぐ力を示す「コア業務粗利益」のうち、手数料ビジネス(役務収入)が好調です。

《コア業務粗利益の推移》

(億円)



※役務比率=役務取引等利益÷コア業務粗利益

- ▶ ATM関連手数料が増益に寄与。
- ▶ 投資信託や保険を中心に、預り資産販売が引き続き好調。
- ▶ 役務利益全体では過去最高水準であった前年同期実績を更新。

役務とは？

お客さまとのさまざまな取引（サービスのご提供）で得られる手数料収入のことです。

貸出金や預金以外の収益源の多様化が必要となるなか、法人、個人を問わず、コンサルティング機能を発揮した手数料ビジネスを展開しています。

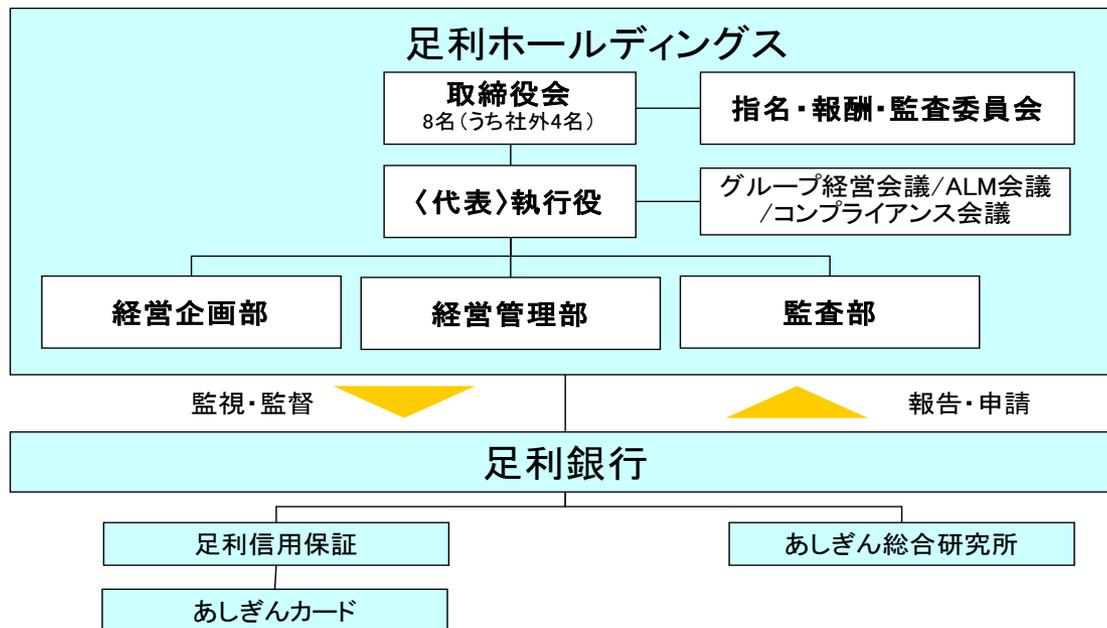
足利銀行の強み (3) 経営管理体制(ガバナンス)

過去の反省をもとに、ガバナンス改革を進め、先進的な経営システムを導入しています。

経営の基本原則

経営の透明性 情報開示 説明責任

経営管理体制図
(HD-BK体制)



委員会設置会社

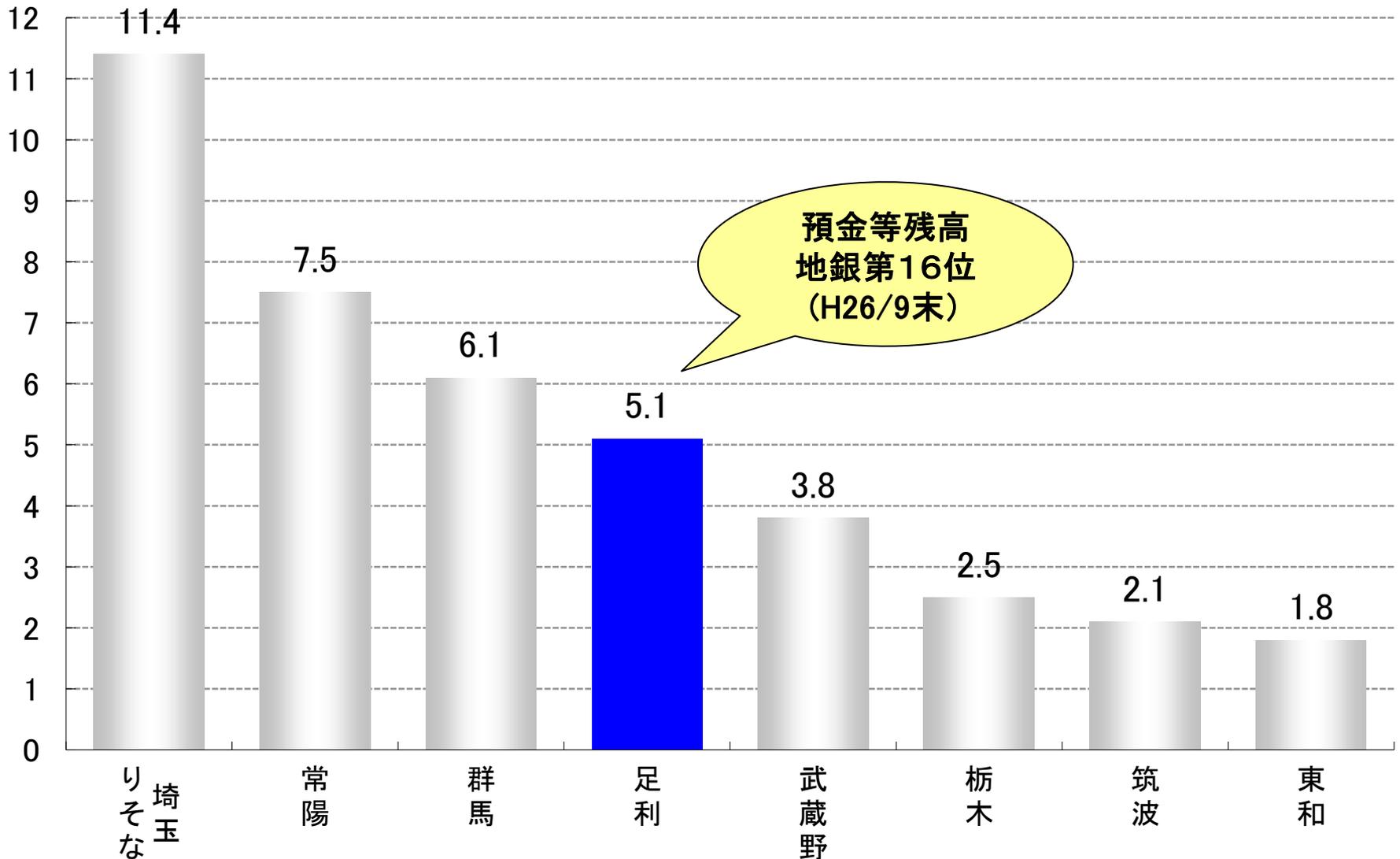
足利銀行(H16年6月～)、足利HD(H20年7月～)

社外が半数を占める取締役会

独立役員 3名

足利銀行の規模 (1)預金 ～近隣他行との比較～

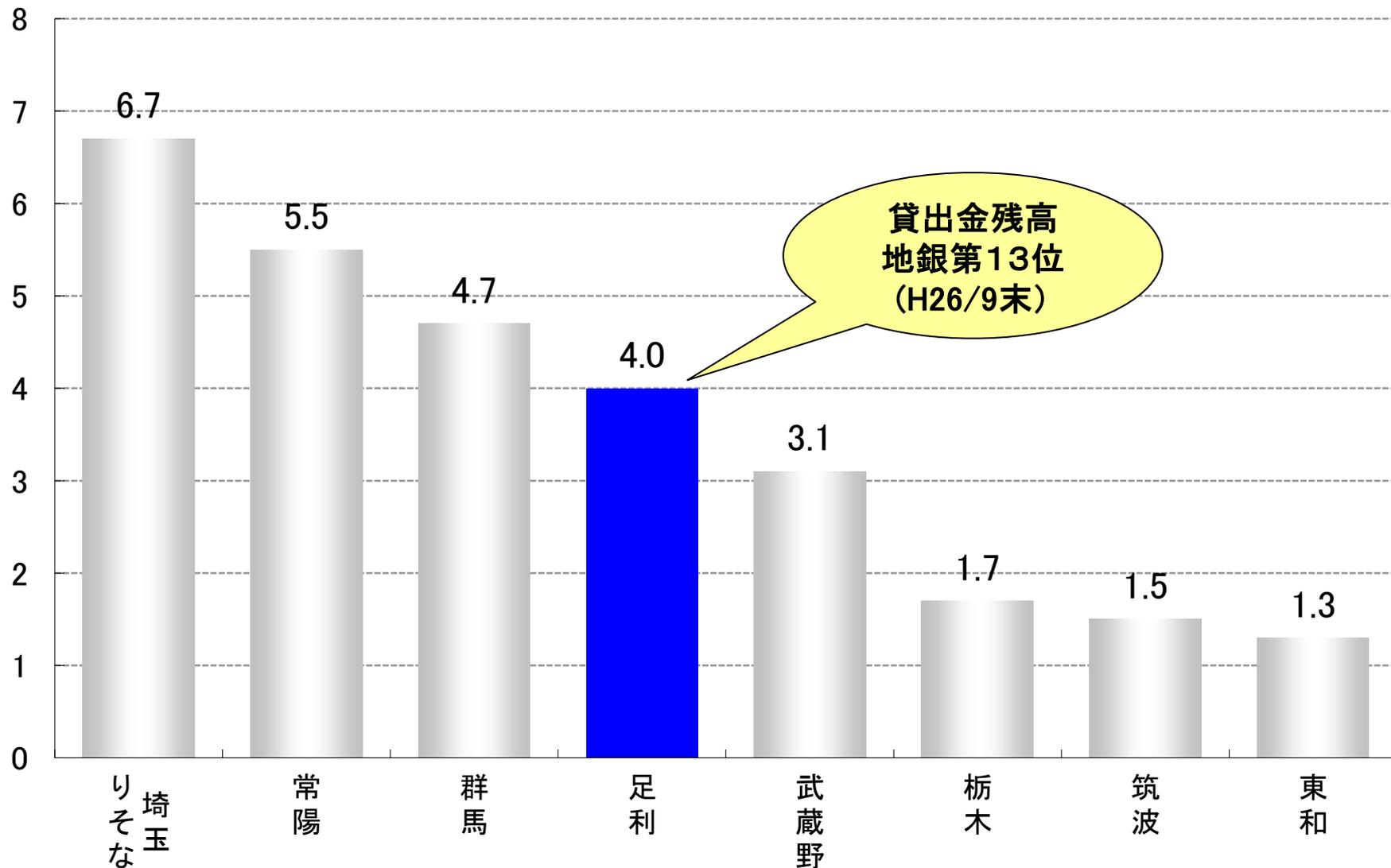
《預金等〔末残〕》 (兆円)



※当行調べ

足利銀行の規模 (2) 貸出金 ～近隣他行との比較～

《貸出金〔末残〕》 (兆円)

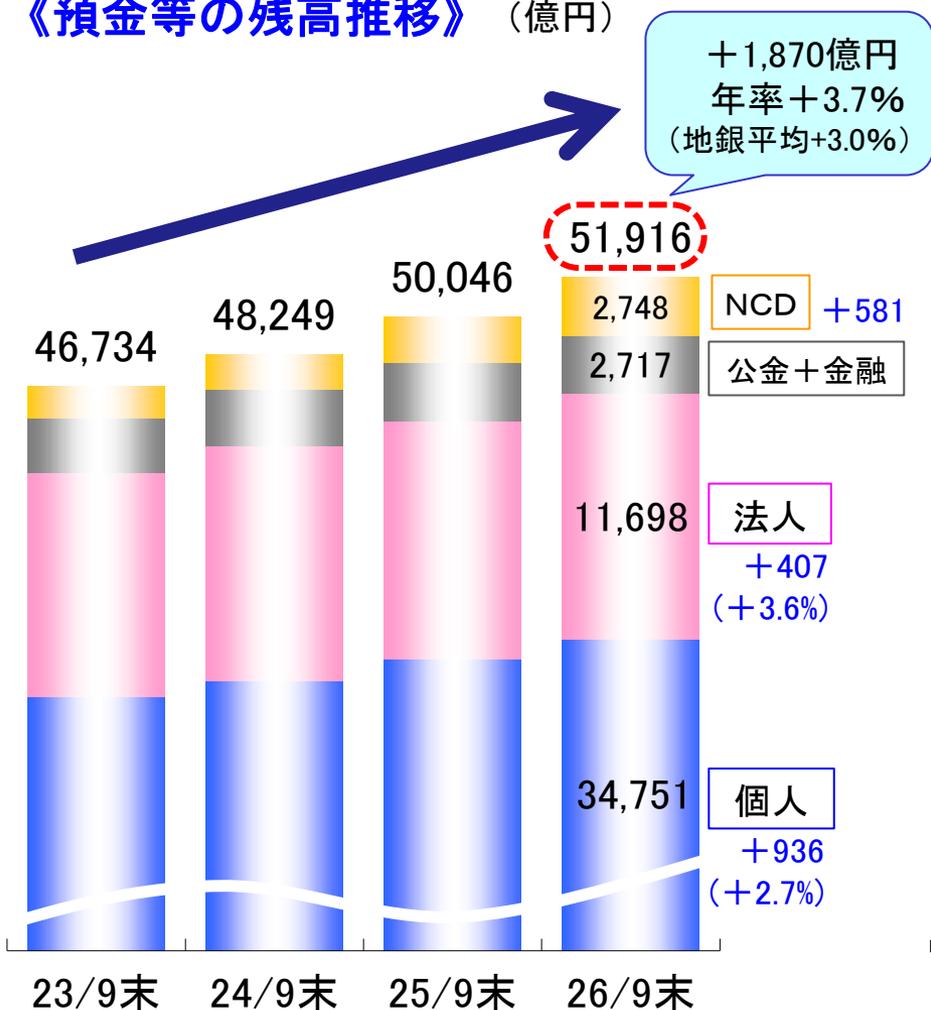


※当行調べ

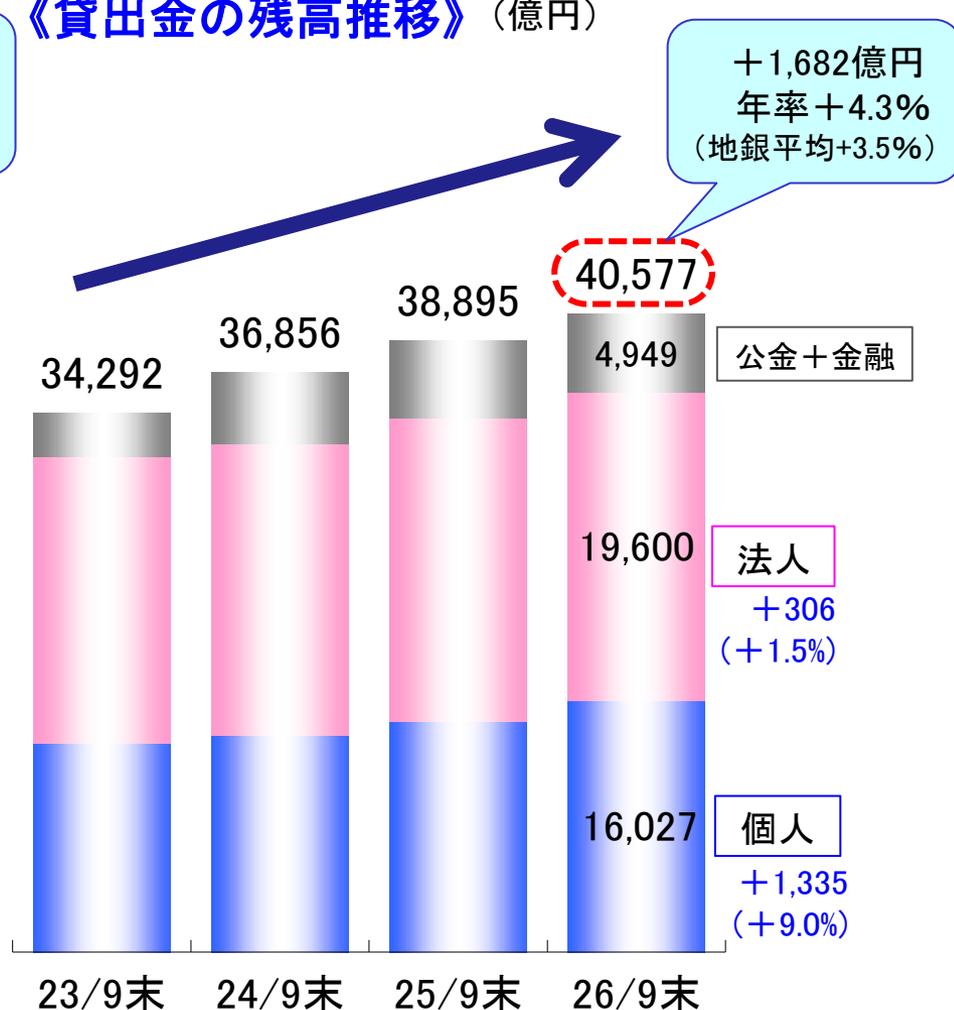
預金・貸出金の推移

預金、貸出金とも順調に増加しています。そのペースは地銀平均を上回っています。

《預金等の残高推移》 (億円)



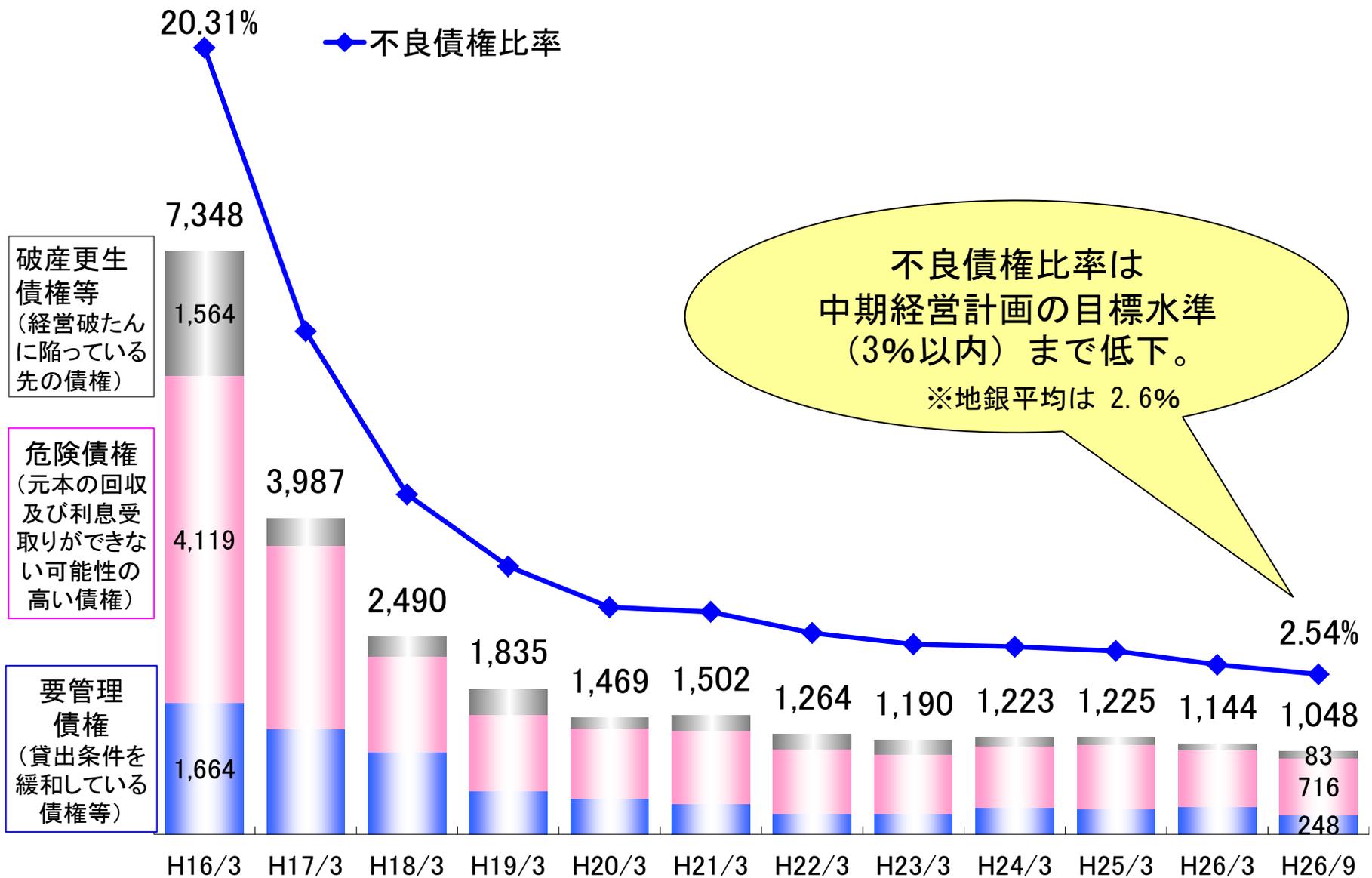
《貸出金の残高推移》 (億円)



資産の健全性

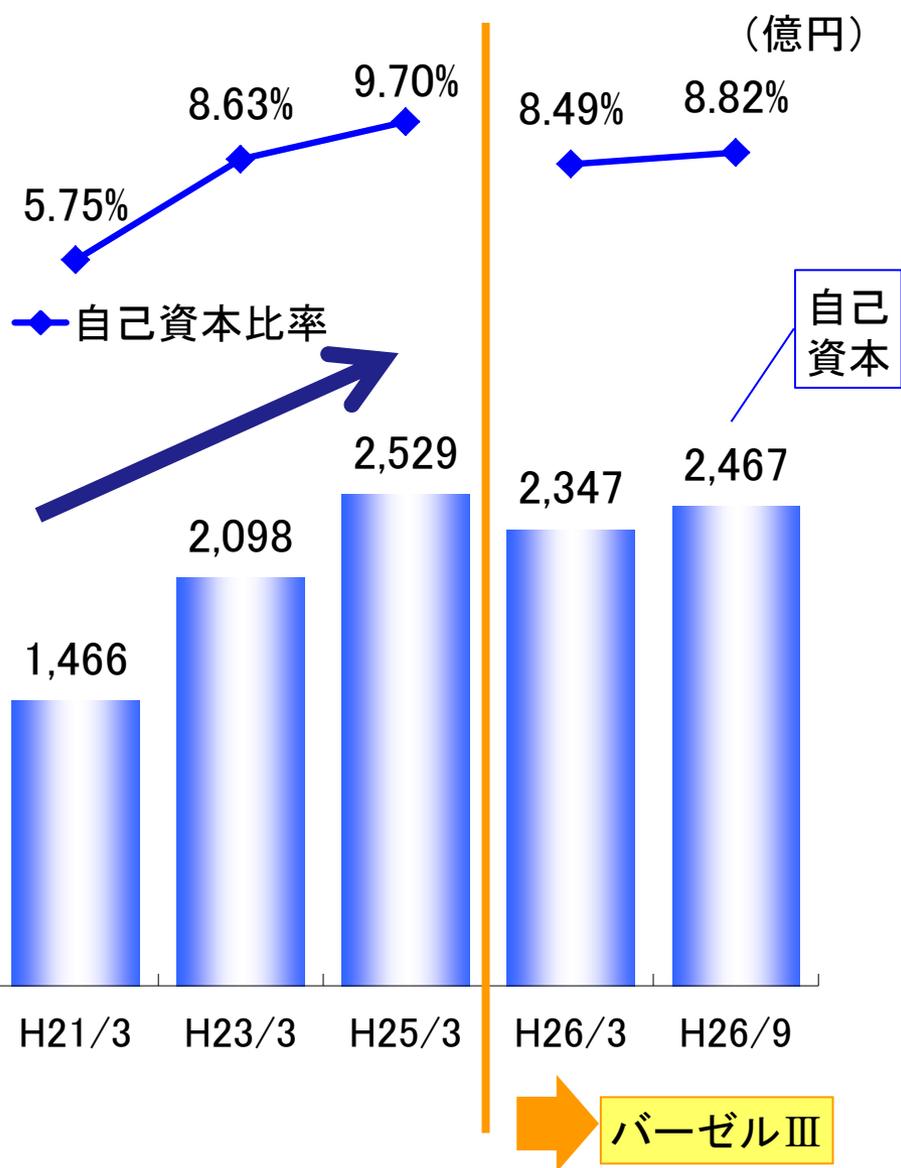
《不良債権(金融再生法開示債権)の推移》

(億円)

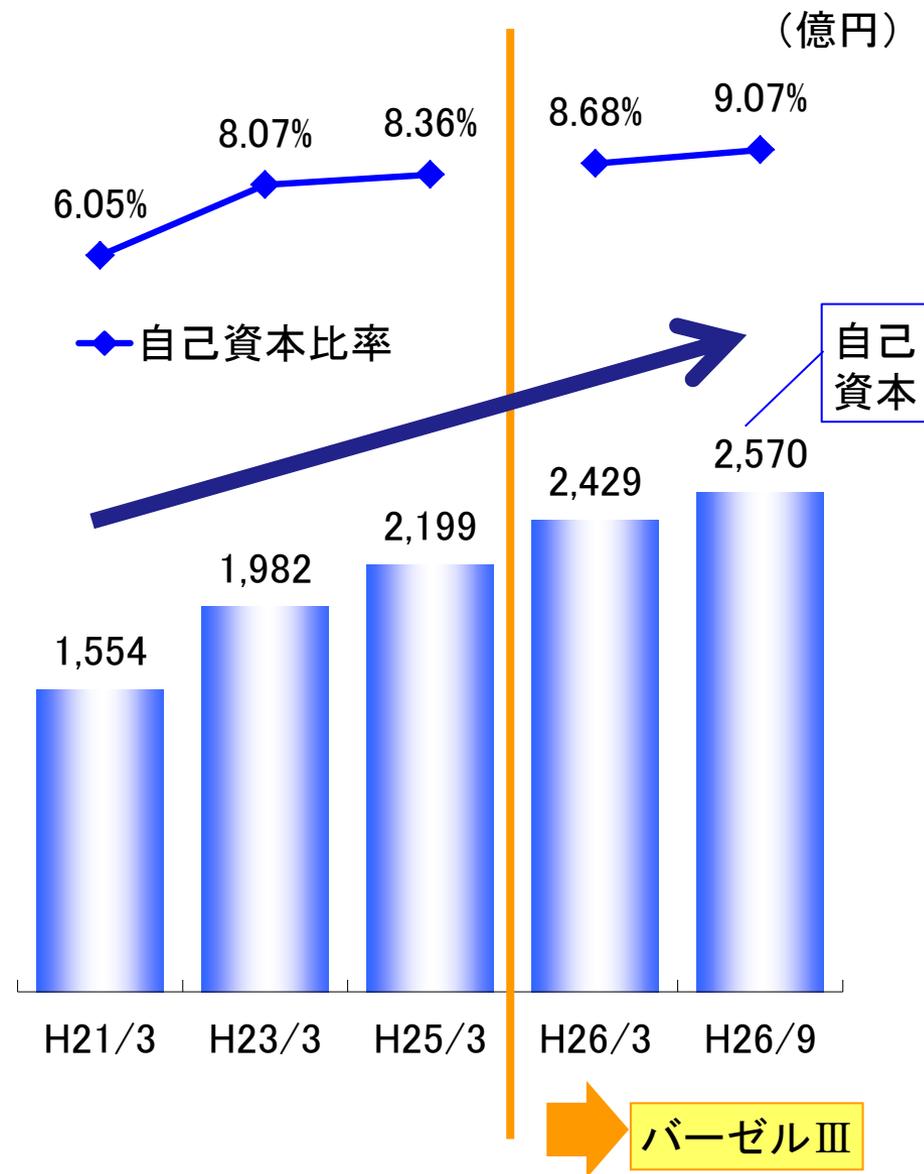


自己資本の充実

【ホールディングス連結】《自己資本比率》



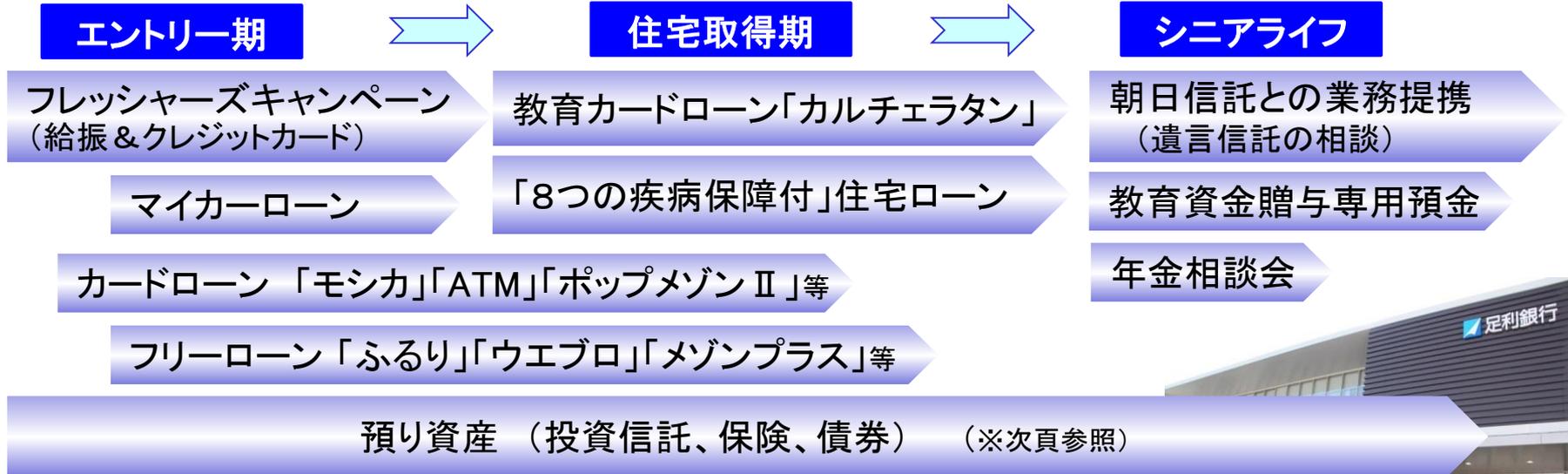
【銀行単体】《自己資本比率》



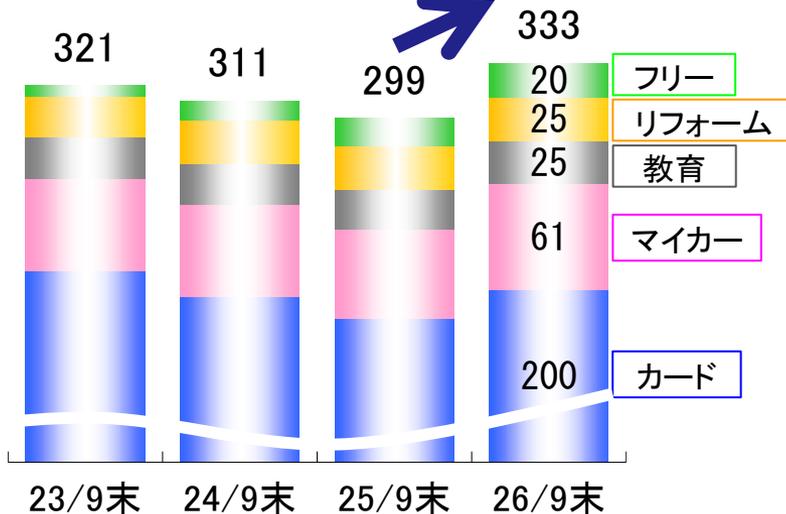
Ⅱ 現在取り組んでいること

個人のお客さま (1) ライフステージにマッチした商品のご提供

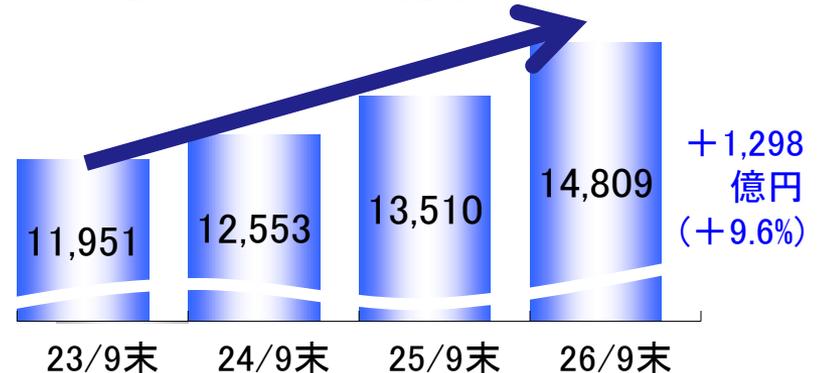
エントリー期(新社会人)、住宅取得期、シニアライフと3つのライフイベントにフォーカスし、それぞれのニーズにマッチした商品・サービスを提供しています。



《無担保ローン残高の推移》 (億円)



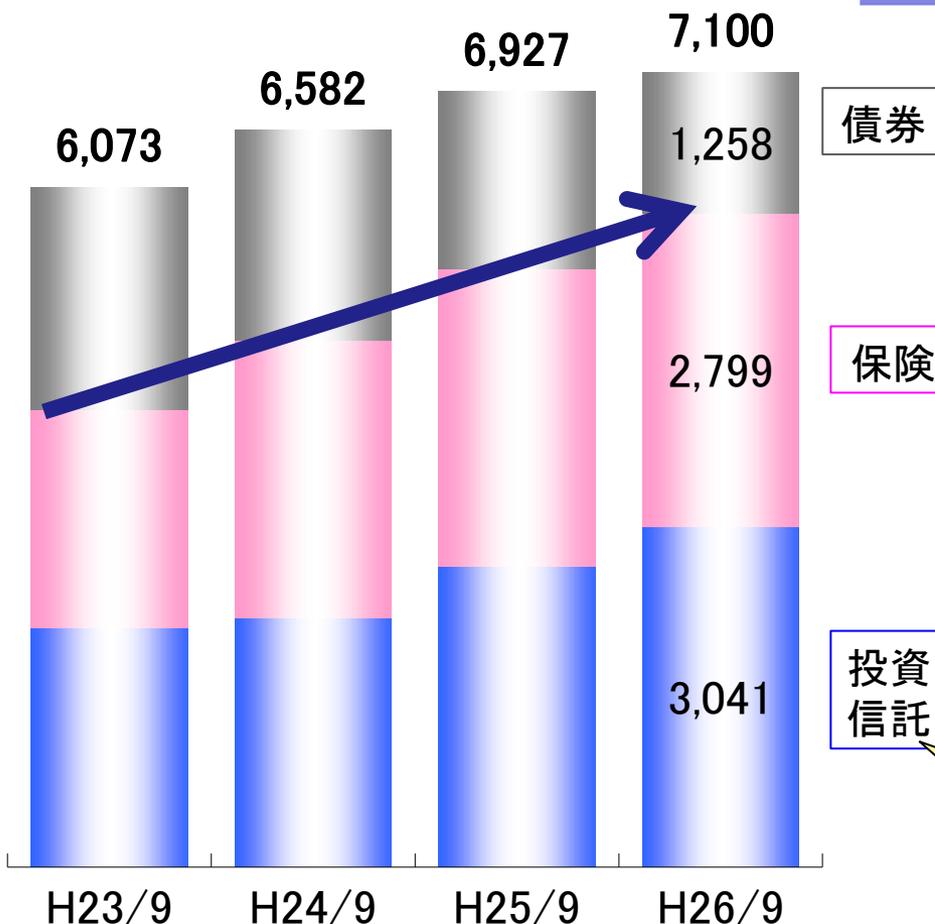
《住宅ローン残高の推移》 (億円)



個人のお客さま (2)「貯蓄から投資へ」預り資産営業の強化

お客さまの投資目的に応じた、さまざまな運用商品を取りそろえ、専門スタッフが資産づくりのご相談をお受けしています。

《個人預り資産の推移(末残)》 (億円)



「貯蓄から投資へ」「シルバー富裕層の増加」に対応

- 預り資産販売者(約270名)の教育・訓練
- 保険・証券会社との協力体制
- タブレット(販売支援ツール)の導入拡大(300台)
- NISA獲得による囲い込み・稼働率の向上
⇒ 裾野(顧客層)の拡大へ。

NISA口座開設数(H26/9月現在)

51,451件 (口座稼働率 40.3%)

投資信託

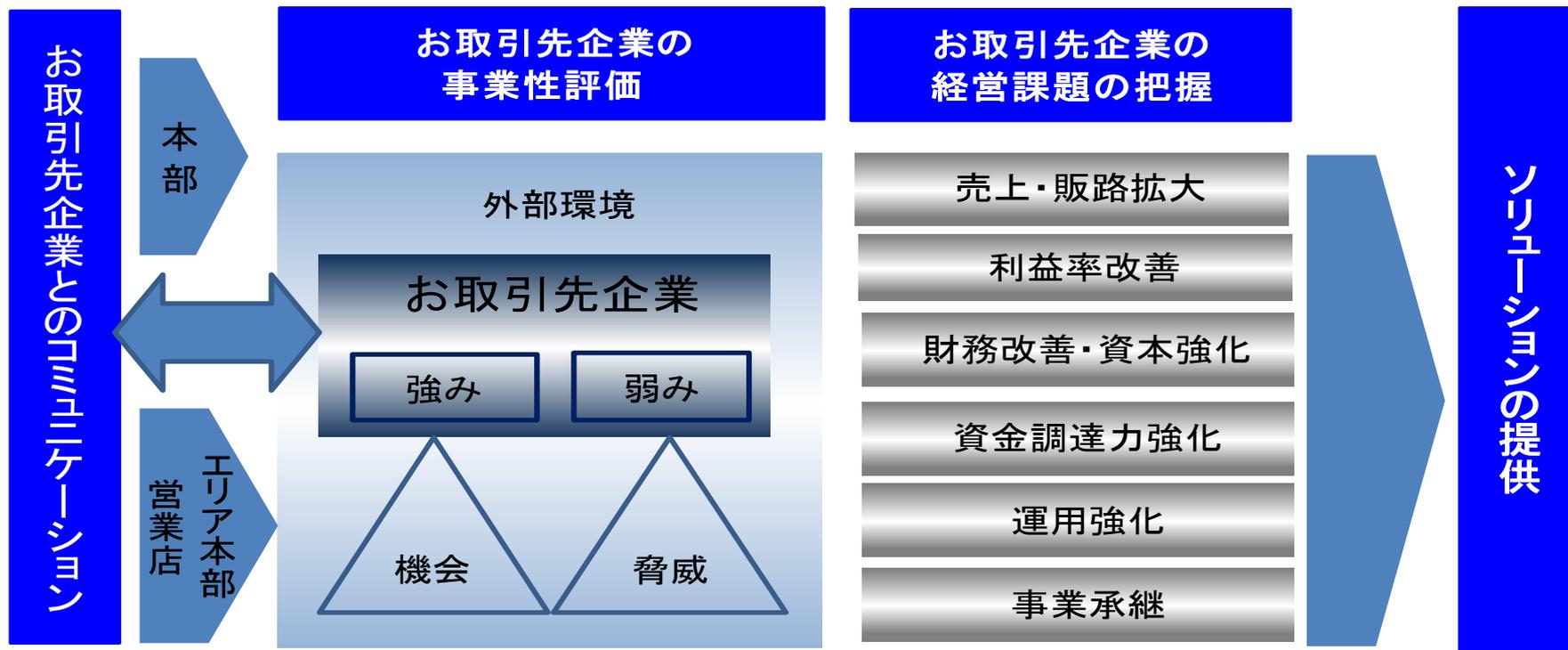
株式投信残高
地銀第3位
(H26/9末)



※保険＝個人年金保険＋終身保険＋学資保険

法人のお客さま (1)事業性評価とソリューションのご提供

お客さまとの「リレーション」を通じて、事業性評価を行い、卓越したソリューションを“お客さまの求めるものを、求めるときに”提供します。



新商品
あしぎんニュービジネス支援資金

あしかが企業育成ファンド

あしぎん成長基盤支援資金

あしぎん環境対応サポート資金



新商品
あしぎんビジネスローン「サポートα」

ABL(動産・売掛金担保融資)

私募債の引受

シンジケートローンの組成

法人のお客さま (2) 成長分野への取り組み

経済・社会の変化に合わせて、「医療・介護分野」や「食と農」など、成長が期待される分野での資金需要に対応すべく、さまざまな取組みを展開しています。

医療・介護分野

「医療チーム」(専任4名)による支援

「医療経営士」認定者 60名

「あしぎんメディカルレポート」創刊

食と農

「食と農」企業支援プロジェクト

「とちまる6次産業化成長応援ファンド」

第1号案件(H26年9月)、第2号案件(H27年1月)への出資が、相次いで決定!

「農業経営アドバイザー」認定者 23名

発行：株式会社足利銀行 執筆・編集：メディアキャスト株式会社

足利銀行が最新の医療情報をお届けします

あしぎん メディカルレポート

INDEX 今月のトピックス 紹介 特集 2014 Medical News 再投

今月のトピックス 紹介状なしの大病院外来 厚生労働省

厚生労働省は10月15日に、社会保障審議会の決

特集 **2014年度 診療報酬改定の影響 最新調査から7対1病院と消費税をみる**

2014年度(平成26年度)は、7対1病床を絞り込み、地域包括ケアシステムへの道を開く「診療報酬改定」と、5%から8%への「消費税率の引き上げ」が重なりました。これらは、どのような形となって、病院経営に影響してくるのでしょうか。今年度も半ばを過ぎて、次第に明らかになってきたその姿の一端を、最新の統計分析データを通じて読み取り、医療業界の今後の大きな流れを展望してみます。

【表1】(全自病・白病の調査) 大規模病院の増収と7対1病院の厳しさが判明

公益社団法人・全国自治体病院協議会(全自病) は9月11日、2014年度「診療報酬改定影響率調査

目立ちます。

【表2】 施設の種類別に見た影響の総収入では、「精神科病院(単科)」が同3.1%増と大幅増収となっています。

【表3】 DPC対象病院・出来高病院別の影響における総収入では、DPC対象病院全体で同1.1%増、



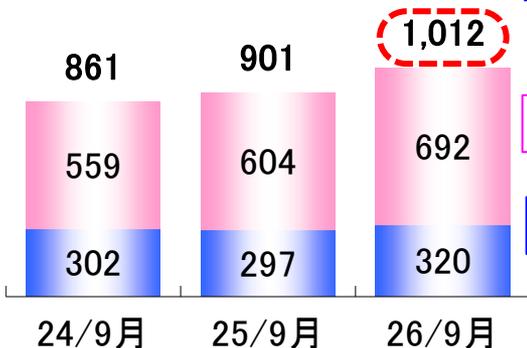
《医療関連貸出(平残)》

+111 (億円)

(年率+12.3%)

病院・介護

クリニック



H26.11月 地方銀行フードセレクション2014にて、出店企業と。

法人のお客さま (3) 海外ビジネス支援

アジアを中心にお客さまの海外取引拡大や海外進出が拡大するなかで、現地最新情報の提供や販路拡大の支援など、サポート体制の充実を図ります。

香港駐在員事務所開設の許認可を取得

⇒ **アジアへ進出するお客さまをサポートする拠点として今春オープン**

取引先の海外進出状況(2013年)

918先(うちアジア764先)

中国・香港 449先

香港

栃木

ベトナム 49先

タイ 97先

インドネシア 31先

海外ビジネスセミナー開催

日本貿易保険(NEXI)との提携、ジェトロセンターの栃木県誘致

海外銀行との提携強化

<提携先>

中国銀行(中国)

カシコン銀行(タイ王国)

ベトコム銀行(ベトナム)

インドステイト銀行(インド)

メトロポリタン銀行(フィリピン)

CIMBニアガ銀行(インドネシア、協力銀行)

海外ビジネスマッチング支援

第1回ものづくり商談会@バンコク2014

FBC上海2014(日中ものづくり商談会)

「ワールド・ビジネス・シンポジウム&メガ・マッチング2014



地域への貢献 ～社会貢献活動(CSR・企業の社会的責任)～

持続的な地域社会の発展に貢献すべく、さまざまなCSR活動を積極的に展開しています。

環境問題への取組み



H26.6月 新入行員による足尾の山への植樹活動



H26.10月 日光杉並木清掃活動

金融教育



H26.8月 キッズマネースクール

地域イベントへの積極参加



H26.11月 日光ハイウェイマラソン

国際交流



H26.10月 公益財団法人あしぎん国際交流財団助成金交付式



H26.12月 全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会

Ⅲ 業績見通し

H27年3月期業績見通し

【銀行単体】《通期業績見通し》

(億円)	H26/3期 実績	H27/3期 修正予想	前年比	期初 計画比
コア業務粗利益	786	788	+2	+16
業務粗利益	799	793	△ 6	+16
資金利益	638	645	+7	+7
役務取引等利益	143	139	△ 4	+8
その他業務利益	17	8	△ 9	-
国債等債券損益	13	4	△ 9	△ 1
経費	489	479	△ 10	△ 2
コア業務純益	296	308	+12	+18
与信関係費用	74	41	△ 33	+1
株式等損益	123	4	△ 119	△ 1
経常利益	354	279	△ 75	+25
当期純利益	321	196	△ 125	+25

【ポイント①】
本業の実力を示す
資金利益、役務取引
等利益は期初計画
を上回る見込み

【ポイント②】
コア業務純益は中期
経営計画の目標300
億円を1年前倒しで
達成する見込み

【ホールディングス連結】《通期業績見通し》

(億円)	H27/3期 当初計画	H27/3期 修正予想	期初 予想比
経常収益	920	960	+ 40
経常利益	180	210	+ 30
当期純利益	150	170	+ 20

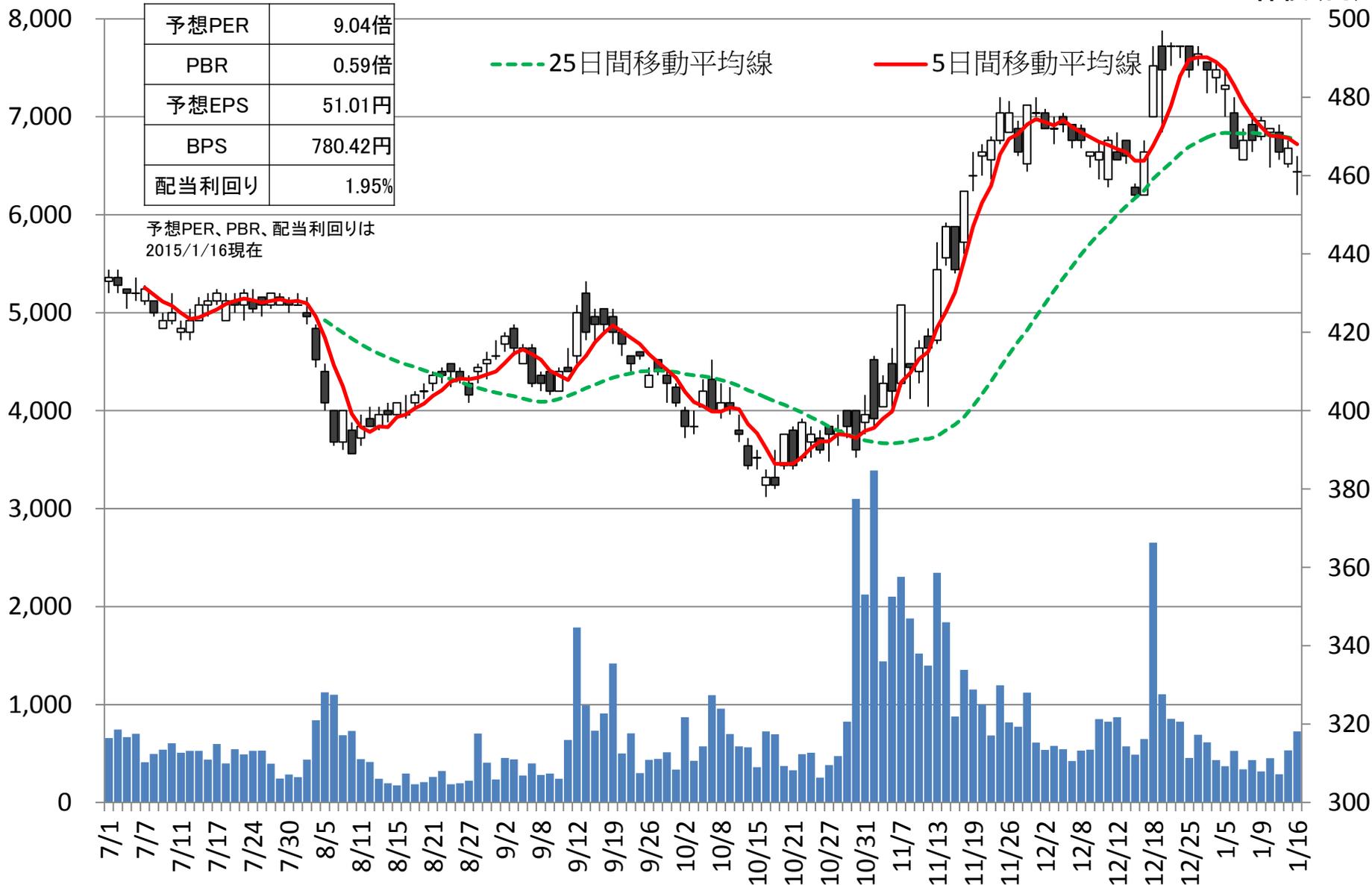
《今後の配当方針》

(円)	H27/3期 当初予想	H27/3期 修正予想	当初 予想比
年間配当額	8.0	9.0	+ 1.0
配当性向(連結)	17.7%	17.6%	△ 0.1%
1株あたり利益	45.01	51.01	+ 6.00

売買高(千株)

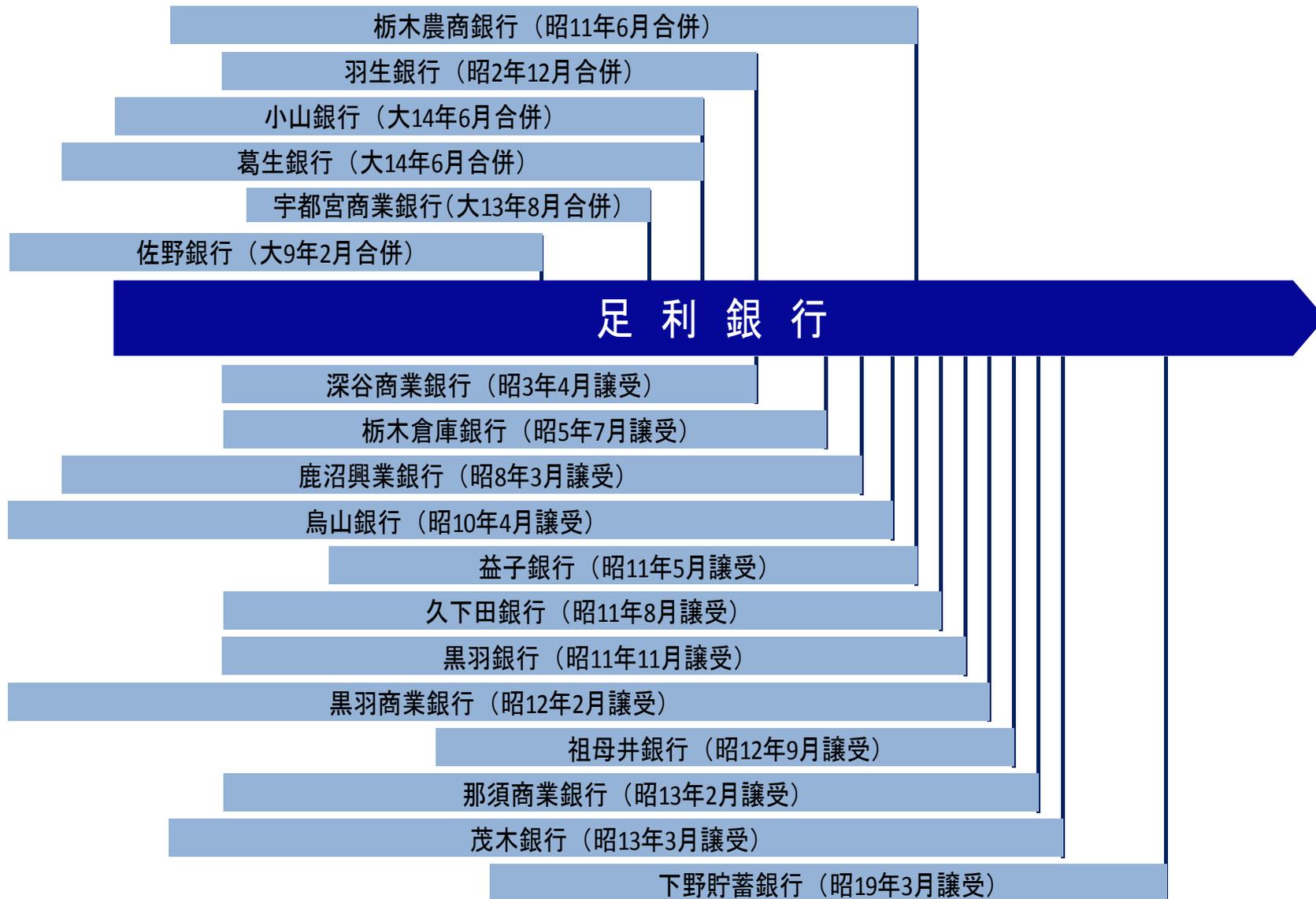
足利ホールディングス(7167) 株価推移

株価(円)



IV ご参考

(補足) 足利銀行の歩み～県内外銀行との合併・営業譲受～



※旧銀行名は、合併または譲受時の商号

中期経営計画の概要

中期経営計画「チャレンジ120」～創業120年に向けた果敢なる挑戦～

基本コンセプト

コア業務純益の増大

基本戦略

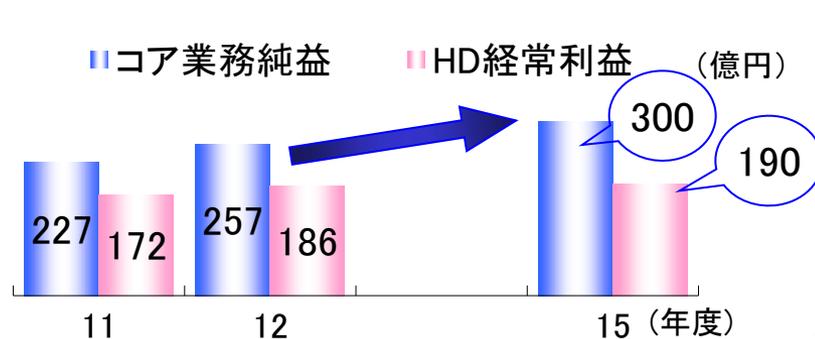
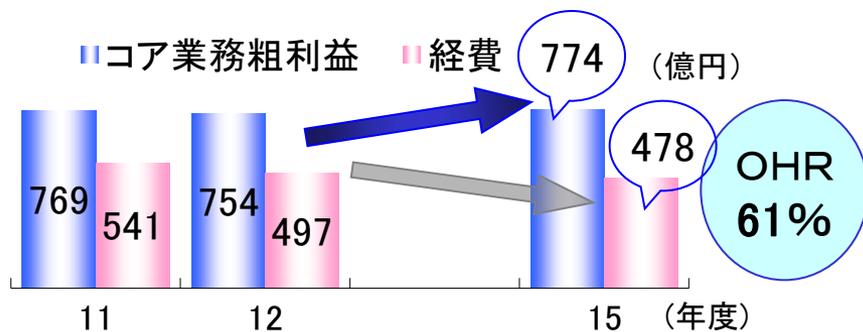
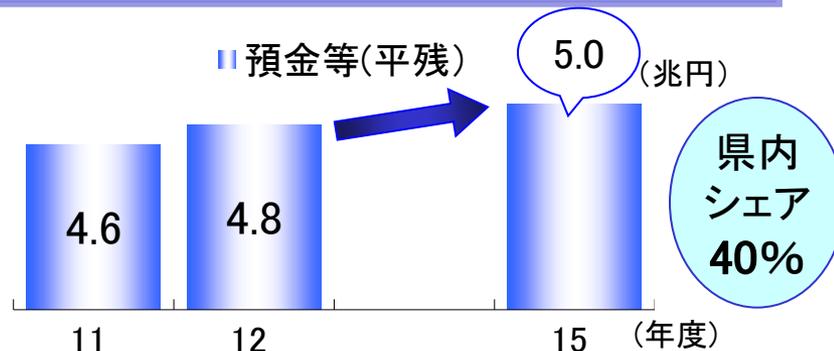
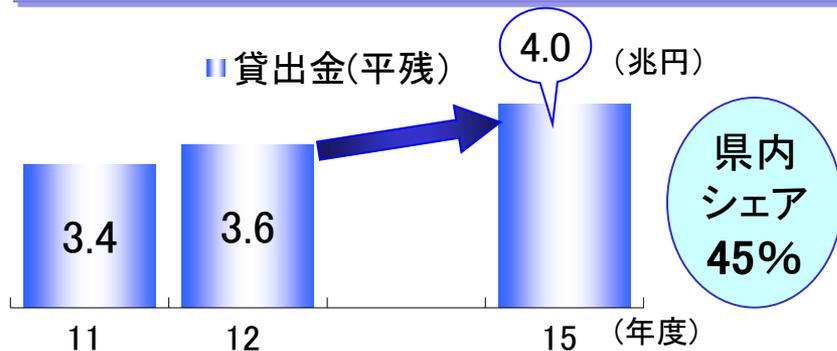
取引基盤の盤石化(貸出、預金等取引シェア拡大)・・・資金利益維持・増大

多様なニーズに対応するコンサルティング力充実・発揮・・・対個人・法人の手数料増強

経営効率化による経営体質強化・・・OHR引下げ

営業基盤の拡大(埼玉等への新たな拠点展開検討)・・・成長ポテンシャル取込み

重要経営目標



H26年9月期中間決算概要(1) 足利銀行単体

- ◆ 銀行単体のコア業務粗利益は、前年同期比+8億円の404億円。コア業務純益は、同比+11億円の160億円。
- ◆ 経常利益は、株式等売買益の減少を主因として、同比△39億円の156億円。中間純利益は、税金費用の増加により同比△110億円の113億円。

《足利銀行単体損益》

(億円)	24/9期 実績	25/9期 実績 ①	26/9期 実績 ②	前年 同期比 ②-①	26/9期 期初計画 ③	計画比 ②-③
コア業務粗利益	374	396	404	+ 8	382	+ 22
業務粗利益	430	410	409	△ 0	382	+ 26
資金利益	314	323	330	+ 6	316	+ 13
役務取引等利益	56	70	72	+ 1	65	+ 7
その他業務利益	59	16	7	△ 8	1	+ 6
国債等債券損益	56	13	4	△ 8	-	+ 4
経費	257	247	244	△ 3	248	△ 4
人件費	136	128	130	+ 2	128	+ 1
物件費	104	103	98	△ 5	101	△ 2
実質業務純益	173	162	165	+ 2	134	+ 31
コア業務純益	116	148	160	+ 11	134	+ 26
与信関係費用	6	29	14	△ 15	12	+ 1
株式等損益	△ 1	64	△ 0	△ 65	-	△ 0
経常利益	168	195	156	△ 39	115	+ 40
法人税等	6	8	62	+ 53	39	+ 23
法人税等調整額	6	△ 39	△ 19	+ 19	3	△ 22
中間純利益	154	223	113	△ 110	73	+ 40

H26年9月期中間決算概要(2) 足利ホールディングス連結

- ◆HD連結の経常収益は、前年同期比△71億円の493億円(業績予想比+43億円)。
- ◆経常利益は同比△36億円の125億円(業績予想比+45億円)。
- ◆中間純利益は同比△107億円の77億円(業績予想比+37億円)。

《足利ホールディングス連結損益》

(億円)	24/9期 実績	25/9期 実績 ①	26/9期 実績 ②	前年 同期比 ②-①	26/9期 期初予想 ③	予想比 ②-③
経常収益	519	565	493	△ 71	450	+ 43
連結粗利益	436	424	424	+ 0	391	+ 33
営業経費	299	290	287	△ 3	291	△ 4
与信関係費用	10	31	20	△ 11	21	△ 0
株式等損益	△ 3	59	△ 0	△ 59	-	△ 0
経常利益	131	162	125	△ 36	80	+ 45
法人税等	9	10	64	+ 53	42	+ 22
法人税等調整額	7	△ 36	△ 16	+ 19	3	△ 19
中間純利益	114	185	77	△ 107	40	+ 37

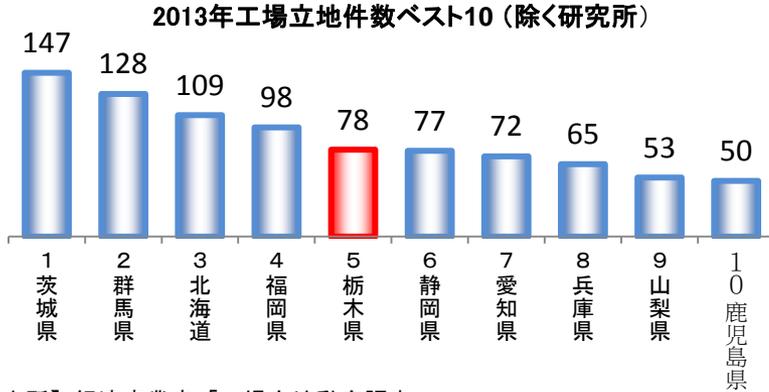
(参考)

のれん償却前利益	145	216	108
----------	-----	-----	-----

マザーマーケット「栃木県」の魅力

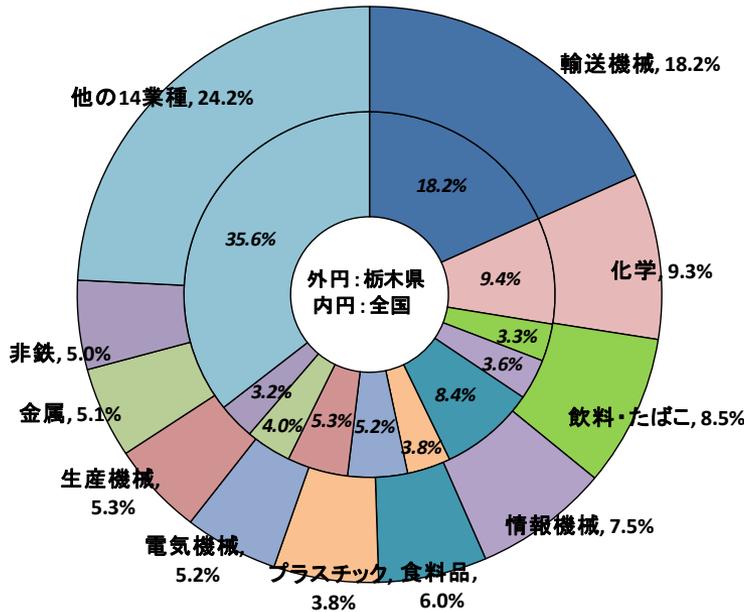
《ものづくり県 とちぎ》

●大手企業や技術力の高い中小企業が集積



【出所】経済産業省「工場立地動向調査」

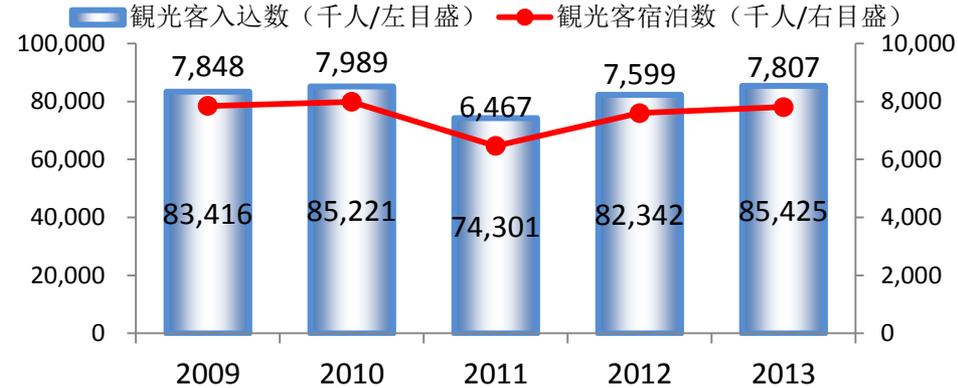
製造品出荷額等の産業別構成比(栃木県と全国の比較)



出所：経済産業省、栃木県統計課「平成24年経済センサス活動調査(製造業)結果」

《豊富な観光資源》

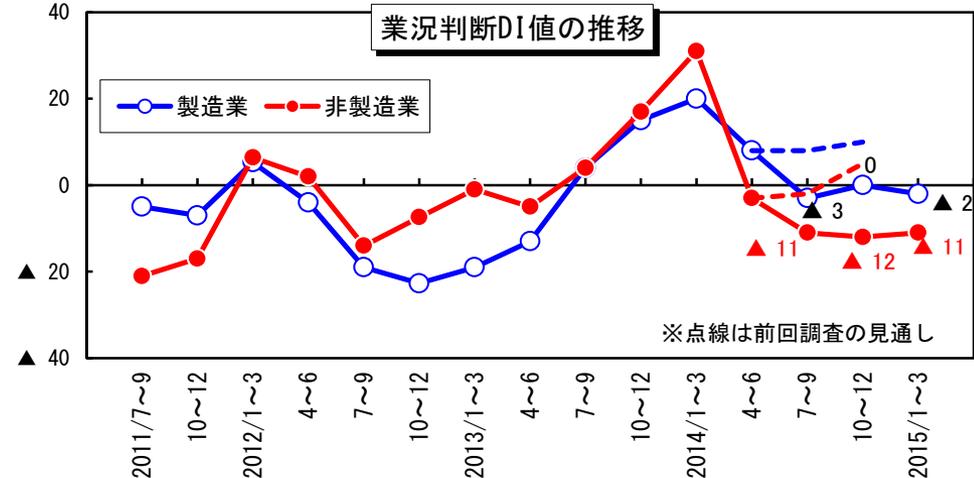
●栃木県の観光客入込数・宿泊数とも回復傾向



【出所】栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査

《地元企業の景況感》

●消費増税の反動減長引くも、一部では明るさ



【出所】あしぎん総合研究所「第166回あしぎん景況調査」



投資家さま向けの情報を当社ホームページに掲載しております。
どうぞご利用いただきますようお願いいたします。

<http://www.ashikaga-hd.co.jp/shareholder/>

事前に株式会社足利ホールディングスの許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。